

ちいさな 建設

夢みなとタワー



浮遊する白鳥のように

三方を海に囲まれた鳥取県境港。日本海に面して、高さ四三層、ガラスカーテンウォールに包まれた「夢みなとタワー」が軽やかに立っている。環日本海交流をテーマに開かれたジャパンエキスポ'97鳥取「山陰・夢みなと博覧会」のシンボルとして建てられた観光拠点だ。全日本タワー連盟に加盟するタワーのなかで一番低いとされる一方、際立つのは構造デザインの美しさ。米国の建築家・バックミンスター・フラーが提唱したテンセグリティ構造を採用。鉄骨の丸柱を中心にリングを配し、細いワイヤーで水平方向に引っ張り構造を安定させることで、四層に重なる白いリングがふわりと浮いて見えるのだ。設計した建築家・杉本洋文さんは、更に鳥取県日南町の杉で集成材をつくり、外周フレームを構築。「これから公共建築に国産集成材を使っていくという時代、身近で小さな建築にも使いやすい接合方法を考えました」。低層棟とタワー棟全体は地元で飛来する白鳥をイメージ。隣接する国際旅客ターミナルに寄港する客船を白鳥が迎える。

アクセス JR境線境港駅からタクシーで15分ほど